

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7 年 3 月 14 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474300286		
法人名	医療法人社団健信会木下メディカルクリニック		
事業所名	グループホームちとせ		
所在地	広島県福山市沼隈町大字草深2037-1 (電話) 084-987-2411		
自己評価作成日	令和7年2月16日	評価結果市町受理日	令和7年4月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3474300286-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年3月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

1ユニット9名と少人数の強みを生かし、出来る事をお願いし家事に参加してもらい、介護する側される側という関係ではなく大家族のような雰囲気でも過ごしていただいている。感染症の流行で、外部との関係も途絶えがちであったが、5類移行後はご家族との面会や、外出なども行っている。又、他事業所との交流も行っている。以前から続けていた、ホームの菜園で野菜作り続け、収穫した野菜をご家族や地域の方におすそ分けして喜んでいただいている。医療面では非常勤の看護師がおり、ホーム内で治療や療養を安心して行ってもらえる体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

経営理念をもとに事業所が取り組むべき事項を設定し日々の業務に全職員が情報を共有し実践している。運営推進会議は市町担当者、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、警察署地域課、地域の他事業所、家族など多方面からの参加を得て事業所の実施状況報告を行い、各々の立場から意見や提案があり、事業所が地域の一員として利用者が住み慣れた場所で過ごせるよう意見が運営に反映される運営推進会議となっている。医療面では協力医療機関主治医による訪問診療や非常勤看護師の健康管理を行い、緊急時の対応や看取りを希望の利用者・家族には事業所が出来る事、出来ない事の説明を行い、希望が叶えられるよう寄り添う支援を実践している。管理者、職員間でも迷いや不安など何でも話しやすい関係性を築いている。

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をホール内に掲示して全職員で共有している。目指す方向性に迷う場合は必ず、理念に立ち返り進むようにミーティング等で話会う機会を持っている。	経営理念を良く見えるフロア壁面に掲示している。業務をする上で迷いや不安がある時など原点に立ち返れるようミーティングなどで話し合っている。年度末には個々に振り返り、また、新たに向けた決意表明を行い、目標を持って取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入り、地域の行事に参加し交流を図っている。入居者と共に近隣のスーパーに買い物に行っている。又、中学生の職場体験の受け入れを行っている。	回覧板や自治会長、民生委員からの地域情報で地域の祭りや他事業所の運動会に参加している。運営推進会議に参加者の交番の警察官に帰宅願望の利用者と訪れ、本人の不安の相談に乗ってもらうなど地域住民としての交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の職場体験を通じ、認知症の方に接する機会を持ってもらうことで、介護施設や認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	近況報告やその時々課題など、他事業所、地域の方 ご家族など様々な方面から意見をいただきそこで出た意見をミーティング時に職員と共有している。	多方面からの参加者で開催している。事業所の現状報告だけでなく、話しやすい雰囲気づくりに努め、事業所の取り組み状況について多職種の参加者から意見や提案があり運営に活かすよう努めている。不参加者には議事録を送付し、ミーティングで職員は共有している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町の担当者や地域包括、ケースワーカーさんと連携してその時々課題解決に向けて協力いただいている。	市町担当者、地域包括支援センターとは、その都度問題解決策や課題について不明な点など相談している。認知症カフェや認知症サポーター養成講座などの開催があれば参加を検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について学ぶ機会を持ち身体拘束の弊害を理解し、身体拘束は行わない方針で進めている。	研修や身体拘束適正委員会を開催し身体拘束をしないケアを実践している。不適切ケアについて気になる点があれば、職員から話を聴取し、解消に努め不適切ケアをしない取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者が率先して虐待について学び、虐待発生の要因となりうる事への理解に努め、不適切ケアについても注意を払い、職員と共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要となる利用者に対し適切に対応できるよう、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は丁寧な説明を行い、再度説明を希望される場合は時間を取り説明を行う。経済的な負担についても他サービスの利用についての情報提供や相談など常に柔軟な対応を行う事で不安の軽減を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者に要望を聞く。うまく伝えられない方には日常会話の中から思いを聴きとり。また家族の面会時に要望があれば伺い運営に反映させている。	玄関に意見箱の設置や「ちとせだより」面会時や電話等で意見を聞く機会を設けている。運営推進会議に出席の家族から職員の顔と名前が分からないと話があり、職員間で相談し、苗字をカタカナで表示し掲示したことを運営推進会議で報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングで業務改善について意見を聞く場を持つ。又全体の中で伝えるに難しい場合は管理者が個々に話を聞き反映させている。	行事開催や誕生日のアイディア、シフト調整や処遇改善手当の支給方法、資格取得、自己研修に関わる費用など職員の意見が反映に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい職場づくりを目指し休み希望など聞き勤務調整を行う。職員の得意な事を生かせる場を作りやりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	難しい点や苦手なケアに関して職員間で聞き合える環境を作っている。外部研修や、オンライン研修などに参加する機会を確保している。研修で得た知識や技術をミーティング時に発表してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣の事業所の方々と連絡を取り合い情報交換を行っている。運営推進会議などで交流の機会を持ち他事業所の取り組みを参考にしてサービス向上につなげている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご家族から事前情報をいただいております。入居後も会話の機会を増やし本人の思いや不安を聴き寄り添っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の困りごとや思いなどを聴き、家族の望む方向性など理解を示し関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前に見学に来ていただきご家族の困りごとや思いを聴いて入居について相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に暮らすもの同士として出来る事はしていただき、日常の中で感謝したりされたりの関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	その時々々の状況を伝え家族でしかできない事はお願いする。家族と過ごす時間の大切さを伝えともに支えて関係を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前によく行っていた店に買い物に行き店員さんと話をしたり、近所の方に訪問してもらうなど馴染みの関係を続けてもらっている。	コロケが食べたいとの要望があり、昔、買い物に通っていたコロケ店に車で出かけ、車中で熱々のコロケを食べ懐かしさを感じたり、昔行っていた同じスーパーが近隣にあり買い物で出かけたり、家族と葬祭の為の外出や利用開始前の自宅の町内会の方が訪れるなど馴染みの人や場所の継続支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションなどで、全体で過ごす時間を作りお互いの事を理解して入居者同士で声をかけあい支え合える関係づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も何かあればホームに立ち寄ってもらえるように声をかけ、その後の本人や家族の様子を伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の雑談から本人の思いをくみ取るように努めている。困難な場合は表情や行動から、気持ちを想像し検討している。	日々の会話やゆっくりと過ごす事でふとした何気ない言葉から把握し、メモ書きにして口頭で共有している。表出が難しい利用者にも言葉かけを行い、言葉では答えられないが表情の変化や仕草、行動で把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用以前の生活は家族や入居前の施設から情報収集している。本人の昔話などから生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人のペースを大切にし体調の変化に注意し出来る事や習慣等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の業務の中で小さな気付きも共有し、ミーティング時に全職員でモニタリングを行い課題を話合っている。今の様子を介護計画に反映させている。	利用者担当制にしているが、日々の業務の中で気づきなど共有し、利用者の望む事、家族の意見を踏まえ、ミーティングで利用者がどうしたら幸せになるか意見やアイデアを出し合い介護計画を作成している。6ヶ月毎に見直し、大きな変化があればその都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	様子や気づきを個別記録に記入し情報共有に努めている。職員間で上手く出来た方法など共有して実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族のニーズに合わせ情報提供を行っている。他科受診など家族の対応が難しい場合ホームの職員が対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の店に買い物に出かけたり、地域行事に参加したりしている。他事業所とも交流の機会を持っている。地域と様々な関わりを持つ事で日々の暮らしに楽しみを持って過ごしてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な訪問診療だけではなく変化があれば往診をお願いしている。家族の希望で、他科への受診も行っている。新型コロナウイルス感染症に感染した場合も主治医の指示のもと、ホーム内で療養出来る体制を整えている。	契約時かかりつけ医の説明を行い希望の確認をしている。協力医療機関による月1回の全体の訪問診療とそれ以外に個別に月1回訪問診療をしている。歯科や他科受診は事業所が受診支援をしている。週5日午後から非常勤看護師による健康管理を行い、緊急時の対応など適切な医療受診支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の関わりの中での気づきや変化を報告し適切な対応がスムーズに行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は早急に情報提供し、病気の治療のほかに認知症の症状についても理解をいただいて、早期の退院に向けて情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時より家族に重度化した場合や終末期についてホームの方針を説明しホームで出来る医療行為についても理解をいただいている。ホームで看取りを行っている事を地域の方にも説明している。	重度化した場合や終末期について説明確認をしている。重度化した場合再度気持ちの変化がないか確認をしている。家族に医師より説明と事業所で出来る事、出来ない事の説明を行い、方針を決め看取り計画を作成し、利用者、家族に寄り添う最善の支援をしている。職員は研修で緊急時の対応など習得している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生のマニュアルの共有を定期的に行っている。入居者の状況の変化に合わせその時のリスクを話し合い対処法など再確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜間や日中を想定して避難方法の確認を行い全職員で訓練を行っている。地域の方や家族にも声をかけ訓練を行い協力をお願いしている。	年2回日中、夜間を想定した避難訓練をしている。消防署員の指導のもとで実際に火災を想定し、消火器の使い方や避難誘導など利用者と一緒に実施している。BCP（業務継続計画）研修やマップ上浸水地域でもあり、事業所は平屋の為、避難場所の確認や食料品や生活必需品を法人建物2階に装備している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の生活歴や性格などに配慮して、呼び方や言葉を選び、声かけを行っている。	接遇についての研修を通じて習得している。生活歴や性格を把握し、距離感や周囲の利用者との関わりに配慮し、人格の尊重やプライド、プライバシーを損ねる事のないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で選べる場面を作り自己選択や自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースで過ごせる様に細かな決まりを作らず臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後、化粧水をつけたり、髭剃りをしたり今までしていたことを続けてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の下準備や後片付けを一緒に行っている。	配食業者による献立を提供している。副菜を湯せん盛り付け、ご飯と汁物は厨房で調理している。食器洗いやテーブル拭きなどできる事は利用者も一緒にしている。行事食や食べたい物、時にはおやつ作り、畑で収穫した玉葱やさつま芋を提供している。食事の様子や摂取量を見ながら食事形態の変更をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事量、水分量など記録し必要量が足り ていない場合は好みの代替え品を提供す るなど工夫している。月に一度体重測定 の増減で、食事量、摂取カロリーなど調 整し、時にはリクエストを聞き提供して いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、歯磨きがスムーズに行えるよう に声かけを行っている。必要な入居者 には仕上げ磨きや口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	開設時よりトイレでの排泄に力を入れて いる。排泄リズムの把握に努め、声掛け や誘導を行っている。	気持ち良くトイレで排泄が出来るよう 個々の排泄リズムを把握し、声掛け誘導 を行い、個々に合った排泄用品や使用量 の削減に努め、トイレで座位姿勢での排 泄支援に取り組んでいる。ポータブルト イレは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便確認表で個々の排便リズムの把握に 努め食事量、水分摂取量などが便秘の要 因となっていないか確認を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	本人の希望を優先して入浴をしてもらっ ている。入浴の順番などにも配慮して声 をかけている。	週2回以上午後浴を基本としている。毎 回浴槽の湯を替え、全員が一番風呂で入 浴剤、ゆず湯、個々の入浴グッズ（洗面 器、ボディーソープなど）を準備し、入 浴を楽しむ支援をしている。入浴を拒む 利用者には声掛けを工夫するなど臨機応 変に対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間眠れなかった時には、朝 ゆっくりしてもらなどそれぞれの ペースに合わせて支援を行って いる。自席で眠っている場合は 居室で休んでもらうように声 をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	服薬に変更があるたびに看護 師から説明を受け、職員間で共 有している。変更直後は出来る だけ小まめに記録を摂り変化 に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	出来る事、得意な事を手伝って もらい、職員や他入居者さんから 感謝される場面を作っている。 行事に合わせた料理を提供し たり、レクリエーションなどで 楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	希望があれば買い物やドライブ に出かけている。家族と自宅に 一時帰宅するなど本人や家族の 思いにそって支援している。	地域行事の参加や他事業所の 運動会に参加している。外出 する事が苦手な利用者と共に 回覧板を次に回したり、筋力 低下予防に散歩や外気浴をし ている。桜見物など行事の計 画を立案して取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	お金の管理が出来る方には自 分でお金を持ってもらい買い 物に行った際、支払いをして もらっている。小銭が財布にた くさん溜まっている場合は、小 銭を使用するように声をかけ ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	便箋を準備して家族に手紙を書いてもらっている。電話の時、耳の聞こえの悪い利用者にはご家族の了解を得て、居室でスピーカーフォンにして会話ができるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	月ごとにホワイトボードの飾り付けを変え、季節を感じてもらっている。又、ホームの庭で咲いた花を飾っている。	職員と共に制作した作品や利用者が個々に習字で書いた一文字を展示している。花を飾り季節を感じられるよう工夫している。ラジオ体操や風船バレーなど楽しみながら運動をしている。導線に支障のないよう机や椅子の配置、空調管理、感染症予防で空気清浄機や換気などに気を配り環境整備に心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル以外の所にも椅子を置きホール内自由に過ごせる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際ににもともと自宅で使っていた家具や日用品を持ってきてもらい使用している。家族の写真を飾るなど家族が常に身近に感じられる様に工夫している。	エアコン、クローゼット、ベッドが設置してある。自宅で使い慣れた寝具や机や椅子、野球選手のカレンダーなど大切にしている物を持参している。家族の希望で利用者の目に入る場所に家族写真を貼り、身近な家族が傍にいる事で安心感が生まれ、落ち着いて過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目当ての場所がわかりやすいように張り紙を貼っている。又、居室入口に名前入りの写真を貼っている。環境整備を行い歩行が不安定な方も安心して移動出来るようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームちとせ

作成日 令和7年4月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域とのつきあいなど、特定の職員のみに関わりしかなく、それ以外の職員が地域とのつながりが出来ていない。	地域とのつながりについて理解できる。	地域行事など様々な情報を共有して職員が参加し地域との関係作りを行う。	1年
2	48	出来る事出来ない事の個人差が大きく、同じ思いを共有して全体で楽しむことが少ない。	全体でのレクリエーションの充実を図り入居者同士の交流が増え楽しみを持つ。	入居者全員で楽しめるレクリエーションの企画を行い実践する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。